対話が基本

校　長　　武井　正明

昨日朝の車中、聞こえてきたニュース。
大阪摂津市のエビ加工会社。従業員は子育て世代が多く占める 20 人ほど。週で決められた合計勤務時間さえ守れば、いつ出社しても、いつ退勤しても構わない。事前の連絡も不要というものだった。
人不足はどの業界も同じ。直近の日本の離職率は 7.6％というから、その高さに驚く。

親の立場からしてみれば、自分の子どもには安定した職業で、長く勤めてほしいと願うだろう。ただ私は、転職自体が悪いとは思わない。仕事を辞める方が、そのまま留まるよりもずっと大きなエネルギーと決断を要する。さらに、二十歳前後で一生の仕事が決める終身雇用の考えは日本独特のもので、実際仕事に就いてやっていくうちに、自分に合った仕事を見つけて転職することは、寧ろ自然な流れでもあると、私は思う。

この加工会社は、上の取組をした結果、離職者が激減した、ということだった。
そこまでの段階では、ああ、また仕組みの工夫か、と思った。
しかし次の瞬間、その会社の社長が「最も大切なのは社員との対話です」と言っているのを聞いて、社長の人としての姿勢に興味が湧いた。
その勤務体系のアイディアも、社員とのヒアリングから生まれたものだという。勤務の工夫はもちろん大事、でも最も大事なのは、共に働いている人たちの声に傾聴すること。聴く力なのだと、あらためて感じた。

自分に立ち戻ってみる。
「西蒲の雄」吉田中学校に勤務させていただく光栄を得て、赴任当初は相当な緊張感をもって勤めていたが、最近の自分は果たしてどうか？
すぐ調子に乗る性格だ。いい気になっていないか。裸の王様になってはいないか。先生方の意見にしっかり耳を傾けているか。謙虚さを忘れてはいないか…。

日本や世界に目を移してみる。
来月は選挙だという。毎日雪の心配をしながら過ごしている人たちを考慮している政治家が、どれほどいるのだろう。
無理を通せば道理が引っ込むような状況が、世界各地で起こっている。
オンラインゲームのように戦争が行われている、この空虚なデジタル感は何だろう。
すべては生身の人間が基本だ。だからこそ、対話を常に大切にしなければいけない。

３年生は来週から私立受験が始まる。大事な時期に入る。担任と保護者の方とで自分の将来について十分話し合い、一枚岩になって乗り越えましょう。